

HOSAKA Mitsuhiko

穂坂 光彦 ホサカ ミツヒコ

教授

工学修士 (東京大学)

早稲田大学理工学部卒業(1970)、東京大学大学院都市工学専門博士課程満期退学(1977)、東京都政調査会嘱託研究員(1973~1977)、国連UNCRD研究員(1977~1984)、国連ESCAP人間居住専門官(1984~1992)、オハイオ州立大学マージョン国際関係研究所客員上級研究員(1990~1991)、国連UNCHSチーフアドバイザー(1992~1995)、日本福祉大学赴任(1995)、福祉社会開発研究所社会開発領域コーディネーター(1997~2001)、国際交流センター・留学生センター長(2001~2003)、COE事業推進担当者(2003~2008)、国際福祉開発マネジメント学科長(2003~2005)、大学院国際社会開発研究科長(2005~2011)、魅力ある大学院教育イニシアティブ推進委員長(2005~2007)、アジア福祉社会開発研究センター長(2008~)。

【研究分野】

アジア居住地計画論、居住福祉、貧困と開発。

【キーワード】

都市貧困、住民参加、スラム改善、居住の権利、居住福祉、ホームレス、社会開発、アジア。

【担当授業科目】

通学大学院：国際経済協力と参加型地域開発、福祉社会開発特別演習。

通信教育部：国際開発、論文作成基礎、研究論文指導、福祉社会開発の支援ワーク。

通信大学院：開発基礎論Ⅲ、開発政策論、東アジア地域開発研究、開発政策研究、マイクロ開発特別研究。

【主な研究テーマ】

1. アジア諸都市のインフォーマル居住地形成の計画論的意義

「スラム」と称されるコミュニティにみられる居住運動と開発主体の関わり方の分析を通じて「ブループリント」に代わるプロセス計画論の意義を理論的・実証的に探っている。

2. 「福祉社会開発の政策科学」の構築

アジアの貧困住民自身によるセイフティネット形成、近年の「障害と開発」論に見られる開発主体関係の変容、スリランカ平和構築プロセスにおける帰還難民の「人間の安全保障」確保、の三分野について「政策対応」分析の方法を模索している。

3. 地域民衆交流による開発協力

草の根レベルでの経験交流によって知識や意欲が伝搬される可能性や問題点について、action-oriented に調査している。具体的には、スリランカの女性住宅融資プログラムの拡大や東アジアのホームレス当事者交流等を扱っている。

【主な研究業績】

<著書>

- ・ *Grassroots Social Security in Asia: Mutual Aid, Micro-insurance and Social Welfare* 総頁157p, 共編著, Routledge, 2011. 02.
- ・ 『開発基礎論Ⅲ：国際社会開発と開発教育 改訂版』 総頁259p, 編著, 日本福祉大学大学院国際社会開発研究科, 2011. 01.
- ・ 『国際開発』（日本福祉大学通信教育部テキスト）総頁325p, 共編著, 日本福祉大学通信教育部, 2009. 04.
- ・ 『福祉社会開発学：理論・政策・実際』 総頁198p, 共編著, ミネルヴァ書房, 2008. 03.
- ・ 『福祉社会開発学の構築』 総頁218p, 共著, 担当章「福祉社会開発学への方法論的考察」 pp. 128-159, ミネルヴァ書房, 2005. 03.
- ・ 『貧困と開発』 総頁218p, 共編著, 日本評論社, 2004. 11.
- ・ 西村幸夫編『建築と都市』 総頁227p, 共著, 担当章「途上国のまちづくり」 pp. 210-217, 彰国社, 2003. 04.
- ・ 柳澤悠編『現代南アジア第4巻 開発と環境』 総頁299p, 共著, 担当章「都市貧困地区の居住環境と住民」 pp. 149-164, 東京大学出版会, 2002. 12.

- ・ 西川潤編『アジアの内発的発展』 総頁321p, 共著, 担当章「都市スラムの自立運動と政策環境」 pp. 123-147, 藤原書店, 2001. 04.
- ・ 『南アジアの都市環境マネジメント』 総頁171p, 共編著, 東京大学東洋文化研究所, 2001. 03.
- ・ 『アジアの街 わたしの住まい』, 単著, 明石書店, 1994. 12, 総頁354p.

<論文>

- ・ 「スラム再生への経験交流」, 『建築雑誌』 126巻1615号, 共著, 日本建築学会, 2011. 03, pp. 26-27.
- ・ 「柔軟な政策メカニズムが居住空間を改善する」, 『都市問題』 第99巻第5号, 単著, 東京市政調査会, 2008. 05, pp. 54-65.
- ・ 「開発研究から見た地域福祉：コミュニティ開発論を中心に」, 『地域福祉研究』 第34号, 単著, 日本生命済生会, 2006. 03, pp. 38-52.
- ・ 「スラム再生への視点」, 『月刊オルタ：スラム再生』（責任編集）2000年5月号, アジア太平洋資料センター, 2005. 04, pp. 4-23.
- ・ 「南アジアの居住環境整備へのプロセスアプローチ」, 『国際開発研究』 11巻2号, 単著, 2002. 11, pp. 221-238.

【所属学会】

日本都市計画学会(1973~)、国際開発学会(1993~、東海支部長2008~2010)、日本寄せ場学会(1996~)、日本居住福祉学会(2001~、理事2001~)。

【社会における活動と仕事】

Asian Coalition for Housing Rights 共同代表(1988~)、トヨタ財団 研究助成選考委員(1998~2002)、愛知部落開放・人権研究所 理事(2000~)、アジア保健研修所 常任理事(2000~2006)、世界銀行 Independent Assessor for Cities Alliance Project(2003~)、国連ハビタット Advisory Committee on Forced Evictions(2004~)、国際協力機構スリランカ・マナー地域難民定住計画「参加型開発」短期専門家(2004~2008)、アジア太平洋資料センター理事(2008~)、ビッグイシュー名古屋ネット代表(2008~)、国際協力機構 ストリートチルドレンとハイリスク家庭への支援方策の調査アドバイザー(エジプト)(2010)、東京大学都市工学科 非常勤講師(都市社会論)(2010)、国際協力機構 社会保障分野課題別支援委員(2010~)。